桃五だより

No.586

（4月号）

杉並区立桃井第五小学校

https://www.suginami-school.ed.jp/momo5shoubg/

2020. 4. 6

桃五の明日

校　長　川　田　　忠

例年より早く開花した桜は、春を待つことが難しかったのでしょう。そんな桜の思いと同様、学校は今年度の始まりをどれほど待ったことか。新１年生102名の入学と共に令和２年度が始まりました。保護者・地域の皆様には、今年度も桃五小へのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

今年度の桃五小の教育活動として目指すことは、「子供たちにボールを持たせたい」ということです。子供自身が中心となって学んでいく活動を増やしていきたい。子供の考えをもっともっと生かした学校生活にしていきたい、と考えています。

例えば、授業の進め方を変えていくことが挙げられます。教師が今日のめあてを決めて、そのめあてにそって子供たちが活動する授業が当たり前に行われてきました。授業の内容は、子供たちにとって初めて学ぶことや、身に付けることが必要とされていることなので、教える側がめあてをきちんと提示することは重要です。

ただ、常に教師がめあてを提示する授業だけでよいのか、と思います。子供が学びたいこと、子供が疑問や未知なる興味のあることに対して考え、探求し、自らを耕し豊かにしていくような授業も、これからの時代を生きる子供たちにとってはもっと重要だと考えます。

そうすると、授業のめあてを子供自身が決めたり、課題解決を子供の学びに応じて複数の方法から選択させたりといった工夫が求められてきます。これまでの授業スタイルに加えて、子供自身が学び方を決めていく授業を桃五で展開したいと思います。

生活面でも同様です。毎週の月曜朝会で教師から今週の目標を提示してきました。月目標に沿って、何人かの週番の教師が週目標を考え、それを全校児童に伝える方法をとってきたのです。前週の週番から引継いだ教師が考えるので、目標自体は的を射たものになっていました。

しかし、子供たちにとっては「与えられた目標」です。例えそれが適切な内容であっても、朝会で話を聞いただけで、「目標」になっていくのかと振り返った時に、もっと別の方法で目標設定ができないものかと考えました。

学校は、子供たちを主体にした活動の場です。できないことや知らないことがあるから、学校で学んでいます。学んで成長している子供たちなのだから、学校を子供たちに任せたり、学校生活を子供たちの手で創っていったりする面がもっとあってもいいのだろうと思っています。子供たちに任せるには時間が必要であり、教師は待つことが求められます。間違いやうまくいかないこともあるでしょう。そうそう簡単にはいかないのでしょうが、「子供たちにボールを持たせた学校創り」を今年度の桃五として挑戦していきたいと考えます。

昨年度末は、新型コロナウイルスの感染防止のために、学校生活が中断してしまいました。まだまだ予断を許さない状況です。少しでも早い収束を願いつつ、子供たちにとっては新しい年度の始まりを気持ちよくスタートさせてあげたいと考えています。「雲外に蒼天（うんがい　そうてん）あり」立ち込めた雲の外側には、眩しく光る空が広がっているという諺を胸に、今年度の桃五を進めていきます。桃五の明日を期待してください。

４月の生活指導目標
もも五の子どものやくそくを守ろう

新学期が始まりました。学校は集団生活の場です。みんなが安全、安心で楽しい学校生活を送れるように、大切なやくそく『桃五の子どもの学校生活』を守っていきましょう。ご家庭のご協力もよろしくお願いします。